

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和2年2月分）

【製造業】不安定な状況に加え、新型コロナウイルスの影響も懸念される

- 製造業は、鉱工業生産指数で非鉄金属やはん用機械で前月比上昇したものの、化学工業等、低下する産業が目立った。ヒアリングにおいては、これまでの不安定な状況に加え、新型コロナウイルスにより、幅広い産業で、生産や物流等に対して悪影響が出ているとの声が聞かれた。

【地場産業】厳しい状況に加え、新型コロナウイルスの影響も懸念される

- 地場産業は、鉱工業生産指数で家具をはじめ全ての産業で前月比低下した。ヒアリングにおいては、市場の悪化に加え、新型コロナウイルスにより生産や物流の停滞のほか、イベントの中止等、悪影響が出ているとの声が聞かれた。

【設備投資】落ち込みが長期化している

- 設備投資は、工作機械受注額について、国内向けは14ヶ月連続、海外向けは15ヶ月連続で前年同月を下回っている。ヒアリングにおいては、新型コロナウイルスにより、計画の見直しや設備の納期遅れ等が発生している企業も見られた。

【個人消費】新型コロナウイルスの影響が大きい

- 個人消費は、小売店の12月の販売額については、ドラッグストアとコンビニで前年同月比増加した。ヒアリングにおいては、新型コロナウイルスにより、来客の減少や各種イベントの中止等、大きな影響が出ているとの声が聞かれた。

【観光】新型コロナウイルスの影響が大きい

- 観光は、1月は「麒麟がくる」の放送開始や、春節による旅行需要の増加により、観光客、宿泊客ともに前年同月を上回った。ヒアリングにおいては、1月下旬以降、新型コロナウイルスの影響によるキャンセルや出控えが深刻化している。

【資金繰り】新型コロナウイルスの影響が懸念される

- 企業の資金繰りは、借入環境に変化は見られない。一方で、金融機関からは、各種産業に対して、新型コロナウイルスの影響が見られるとの声が聞かれた。

【雇用】人手不足の状態が慢性化しているが、一部に解消の兆しもある

- 雇用面は、有効求人倍率等の関連指標は上昇に転じ、依然として人手不足は慢性化した状態。一方、ヒアリングにおいては、人手不足感が薄まってきているとの声も聞かれている。

【景気動向】

景気動向指数（一致指数）は3ヶ月ぶりに上昇し、中小企業における景況感も2ヶ月連続で低下した。